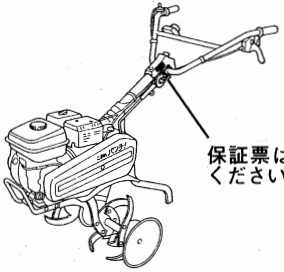
ホンダ F310

取扱説明書

お買いあげありがとうございました。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。



トレーラー走行はできません。
（小型特殊自動車の認定を受けていません。）

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

30733670
00X30-733-6700

Ⓝ Ⓗ Ⓒ 10009104

1 安全にお使いいただくために

●安全のために知っておきたいこと

★日常点検、整備を忘れずに。(作業機を上げて点検する場合は、必ず落下防止を行ってください。)
★工具を適切に管理し、正しく使用する。
★子供を乗せたり、近寄らせないこと。
★衣服や頭髪、手ぬぐいなどが巻込まれないよう、服装には十分注意する。
★火災の恐れがある場所では作業しない。また格納の場合、火の気のないところにおくなど火災予防に十分注意してください。

●作業を始める前に

★必ず点検、整備を行う。
- 点検作業は、通行の妨害及び危険等のない平坦で安全な場所で行う。
- 屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意する。
- 装着する作業機に合わせて適正バランスを保つ。

★防護装置の保全
- 防護装置は正しく取付けられているか。
- 点検、整備のため取外された防護装置は正しく復元され、確実に締付けられているか。

●作業中の注意

★作業中は、まわりに十分注意し、関係者以外の人を近づけない。
★傾斜地では、転倒を防ぐため速度や旋回などに十分注意する。
★作業場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過など、転倒には十分注意する。
★作業中は、動力伝達装置や回転部に接触しないよう特に注意する。
★作業場への出入り、溝または畔越えを行うときは、アユミ板等を使用してください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなく危険です。

これだけはぜひ守りましょう

★車軸作業機を取付ける場合は、車軸取付け部のガタを必ず確認してください。異常にガタがある場合、そのまま使用すると本機を破損するばかりでなく危険です。お買いあげ販売店へお申しつけください。
★土塊や石などがとび散る作業においては傷害に注意する。
★作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行う。
★休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて水平な安定した場所で確実に固定する。
★ガソリン点検補給時は必ずエンジン停止。火気厳禁。
- ガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動する。

●作業が終ったら

★次の作業のために機械の点検、整備を行う。
★作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行い、前傾及び後傾状態で放置しない。
★トラック等への積降し時は、燃料コックを“止”にし、転倒や落下に注意する。
★洗車時にはハンドル　コラム先端の吸気取入れ口、空気清浄器(エア　クリーナ)のカバー締付け部付近、電装品、および気化器に水がかからないように注意してください。これらの部分に強く水をかけると内部に水が侵入し、本機不調の原因となる場合がある。
★保管は、安定した場所で安全な状態で行う。
- ハンドルを地面に付けた状態で保管するとガソリンが漏れたりエンジンがかかりにくくなることがあるので、必ずドラック　バー(抵抗棒)等を接地させて置くこと。

★エンジン上部に物をのせるのは厳禁。
- 特にマフラ(消音器)は熱くなっているので、可燃物は絶対にのせないでください。

★屋外に放置する場合は、エンジンが冷えてからボディ　カバー等をかけ、本機に雨水がかからないようにする。

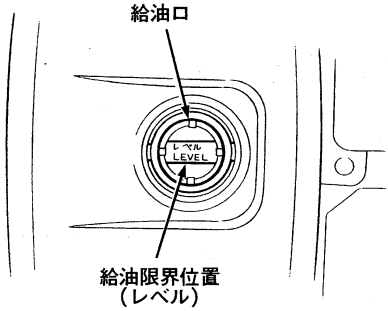
2 エンジンをかける前に点検しましょう

★点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行ってください。

ガソリンの点検

点　検

本機を水平にし燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置(LEVEL)までガソリンがあるか点検します。すくない場合は補給してください。



補　給

使用ガソリン：無鉛(レギュラ　ガソリン)

タンク容量：　1.4 ℓ

- キャップを外し、給油口の給油限界位置まで補給してください。
- 給油限界位置以上では本機前傾時、傾斜作業時にタンクキャップからガソリンが洩れることがあります。
- キャップは補給後完全にはめ込みいっぱいにまわしてください。

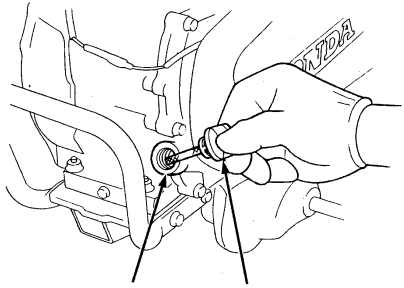
注意

- **火気厳禁**
- **必ずエンジンをとめて補給してください。**
- **本機に貼られている注意ステッカーにしたがってください。**

エンジン　オイルの点検

点　検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



補　給

- 少ない時には新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は6頁参照）補給後、キャップを手で完全に締付けてください。
- 推奨オイル：　ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)
  ②ウルトラ-U〈2輪車用〉(SAE10W-30)
  またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

注意

- **低温時(気温10°C以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U〈2輪車用〉SAE 10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時(気温－15°C以下)では、API分類SE、SF級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。**
- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが洩れることがあります。**

エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》　初回：20時間目、以後：100時間運転毎。また、稼働期前には必ず交換してください。

《推奨オイル》　ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)
②ウルトラ-U〈2輪車用〉(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

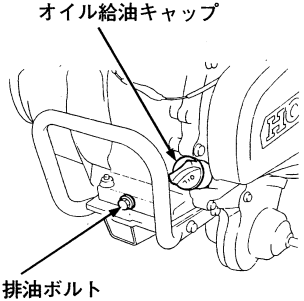
注意

- **低温時(気温10°C以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U〈2輪車用〉SAE 10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時(気温－15°C以下)では、API分類SE、SF級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。**

《規定量》　0.6 ℓ

《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。エンジンが暖かいときに行うと、エンジン内に残る量が少なく早く抜けます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、シリンダバレルに確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



注意

- **エンジン停止直後にオイルを抜く時は、オイルの温度が高いのでやけどに十分注意してください。**
- **オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。**
- **必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。**

空気清浄器(エア　クリーナ)の点検

空気清浄器カバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。汚れている場合は清掃してください。

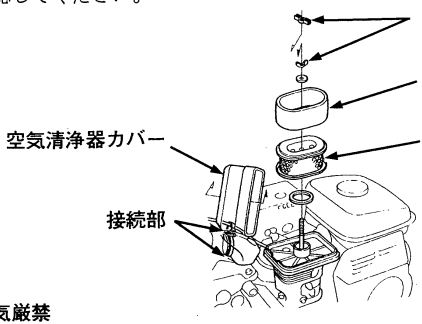
空気清浄器(エア　クリーナ)の清掃

空気清浄器が目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時期》 50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間毎。

1. 締付けナットをゆるめ、図のように空気清浄器カバーを取り、ろ過部を取外します。
2. ウレタンのろ過部は中性洗剤を水で薄めて洗い、更に水ですすいでから圧縮空気を吹きつけるか又はよく絞って乾かします。オイルに浸した後固く絞ってから取付けます。
3. 紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
4. 点検後は空気清浄器カバーを確実に取付けたあと接続部がはずれていないか確認してください。



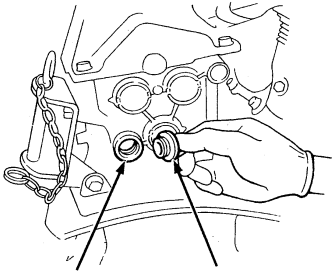
注意

- **火気厳禁**
- **空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **空気清浄器カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け不良をすると、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

変速機オイルの点検

点　検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。すくない場合は補給してください。

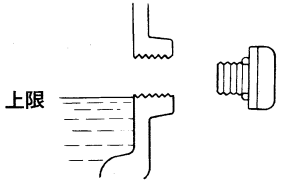


補　給

《推奨オイル》 ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)
②ウルトラ-U〈2輪車用〉(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

オイル容量：0.95 ℓ

- 給油キャップを外し、口元まで補給してください。
- 補給後、キャップは完全に締付けてください。



注意

- **低温時(気温10°C以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U〈2輪車用〉SAE 10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時(気温－15°C以下)では、API分類SE、SF級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。**

その他の点検・整備項目

これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

●吸入、排気弁すき間……点検・調整：300時間毎又は年１回
●燃料タンク、燃料ろ過網……清掃：300時間毎又は年１回
●燃料チューブ……点検：２年毎　交換：４年毎

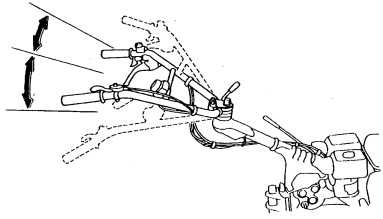
ハンドル固定レバー（BAタイプ）

ハンドル高さ調整とハンドル角度調整は、ハンドル固定レバーを３～４回ゆるめることにより、同時に任意の位置へ調整することができます。
調整後はハンドル固定レバーを確実に締めつけてください。
作業内容、作業者の身長に合わせて使用ください。

ハンドル高さ調整:

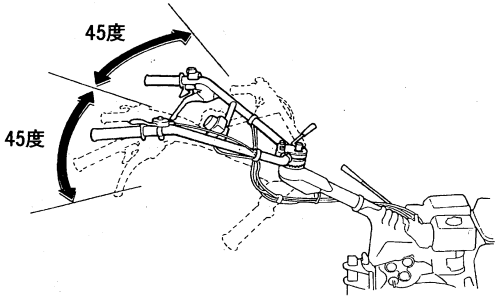
ハンドル固定レバーをゆるめ、ハンドルを任意の高さに調整してください。





ハンドル角度調整：（左右方向）

ハンドル固定レバーをゆるめ、ハンドルを任意の角度に回転させ、調整してください。ハンドル角度は図のように左右45°以内で調整してください。



注意

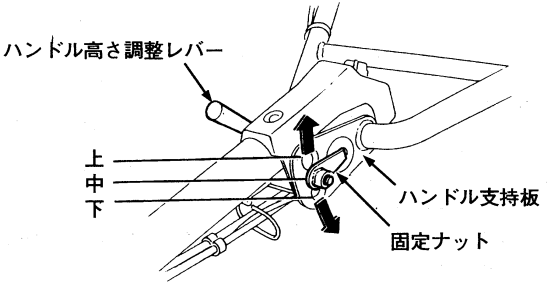
● ハンドル角度調整は左右45度以上回転させないでください。
ワイヤ類が引っぱられて、本機に悪影響を与えることがあります。

ハンドル高さ調整レバー (K,KA,KC,KRタイプ)

ハンドルの高さを、作業内容や運転者の身長に合わせるレバーです。

《調整のしかた》

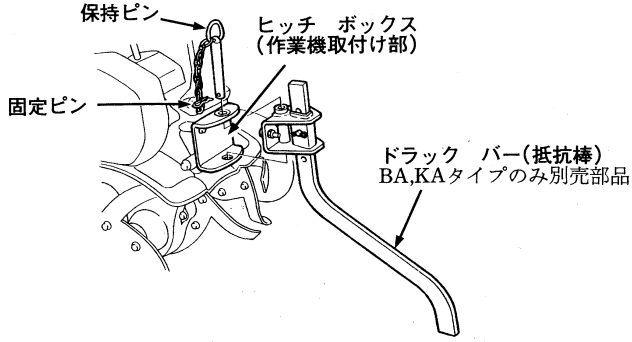
ハンドル高さ調整レバーを回しながらゆるめ、ハンドルを上下移動し、固定ナットを任意の穴へ移動しハンドル高さ調整レバーを確実に固定します。



ヒッチ　ボックス(作業機取付け部)(BA,K,KA,KCタイプ)

作業機を取付けるところです。

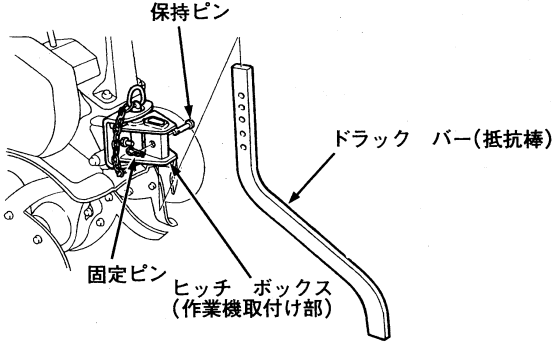
取付けは保持ピンを差し込みます。保持ピンは固定ピンで固定します。



ドラック　バー(抵抗棒)(K,KCタイプ)

耕うん深さを調節する時、ドラック　バーを上下させて調節します。

調節は任意の穴位置に保持ピンを差し込み固定ピンで取付けます。

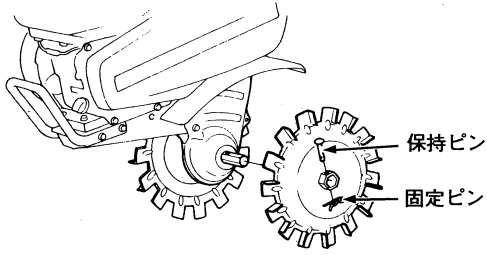


駆動車輪取付けピン (KRタイプ)

駆動車輪の取付け、取外しを行う時に取扱います。

注意

- **車輪を取外す時は、２人で行うか棒等で支え転倒に注意してください。**

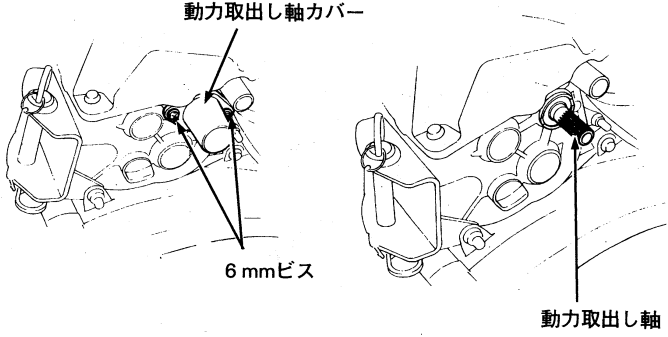


動力取出し軸 (KRタイプ)

動力の取出しは6 mmビス２本を外し、動力取出し軸カバーを外して行います。

注意

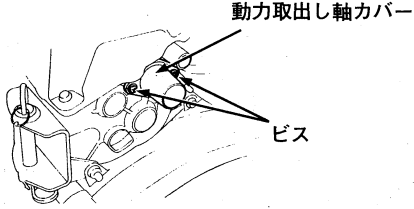
- **変速レバーを中立にしてください。中立にしないと本機が動き危険です。**
- **動力取出し軸カバーは取出し軸を使わない時は常にカバーを取付けておいてください。カバーを付けないでおくと衣類等が巻きつくことがあり危険です。**



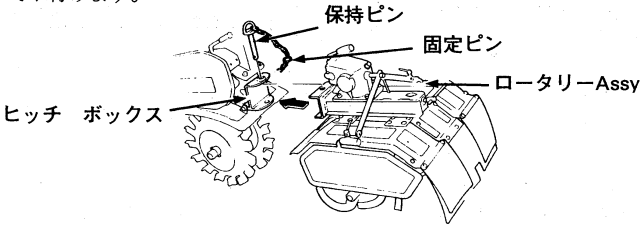
ロータリ(KRタイプ)

《取付けかた》

1) エンジンを停止してビス２本を外し、動力取出し軸カバーを外します。

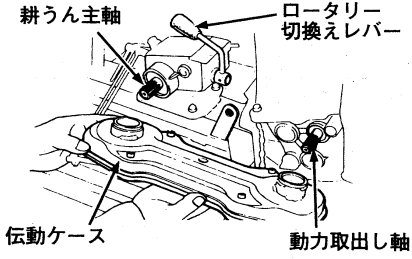


2) ロータリーAssy.をヒッチ ボックスに取付け、保持ピンを差し込み固定ピンで取付けます。

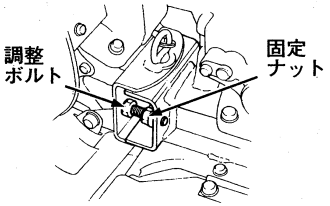


3) 耕うん主軸と動力取出し軸のスプラインに、伝動ケースをはめ込みます。

● はめ込む場合は本機とロータリを平行にしてロータリ切換レバー**“正転”**又は**“逆転”**にして耕うん軸をまわしながら入れると取付けやすい。



4) ロータリ　ヒッチ部の調整ボルトをまわして、本機とロータリを左右同じに調整します。
調整は固定ナットをゆるめ、調整ボルトをまわして頭部が本機のヒッチ　ボックス面を軽く押すまで伸ばします。
調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



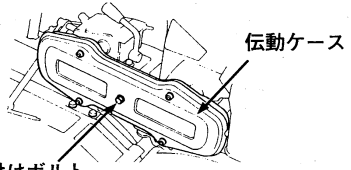
注意

- **本機とロータリのすき間が不適正のまま使用すると異常振動や故障の原因となりますので取付け後、必ず再確認してください。**

～1.確認方法は伝動ケースの取付け、取外しが軽く行えるか点検し、軽く行えれば正常です。

～2.もし「カタイ」場合は調整が不適正ですので再調整してください。

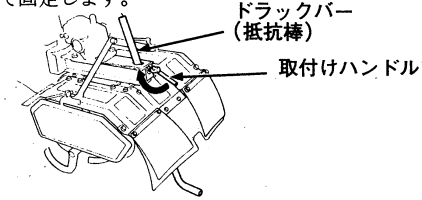
5) 伝動ケースを取付けボルトで確実に締付けます。



注意

- **ロータリを本機に取付けた後は必ず本機に対し、ロータリがねじれた状態で取付けられないか確認してください。**

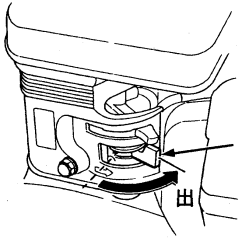
6) ドラック　バー(抵抗棒)をロータリAssy.に差し込み、使用したい作業の高さに取付け、ハンドルで固定します。



3 エンジンのかけかた

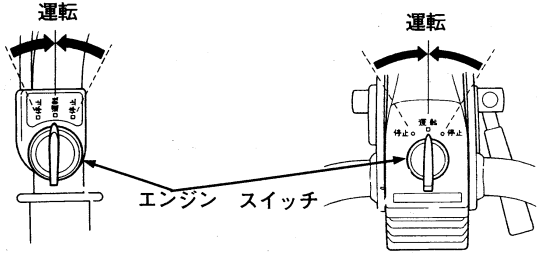
★クラッチ　レバー“切”変速レバー“中立”になっているか確認してからエンジンをかけてください。

1. 燃料コック　レバーを“出”にします。

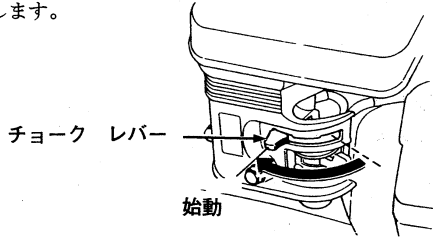


2. エンジン　スイッチを“運転”にします。

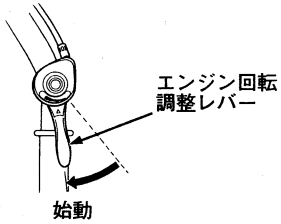
(BAタイプ)　　(K,KA,KC,KRタイプ)



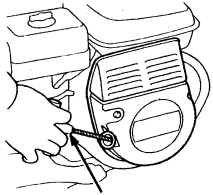
3. 寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョーク　レバーを“始動”の位置にします。



4. エンジン回転調整レバーを**“始動”**にします。



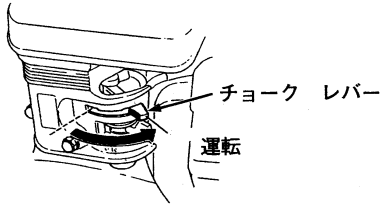
5. 始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。



注意

- **グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置を破損することがあります。**
- **運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。**

6. 2～3分間暖機運転を行ないます。
チョーク　レバーを操作(始動の位置)したときは、エンジン回転が安定することを確認しながら**“運転”**の位置に戻します。



7. エンジン回転調整レバーを**“高”**方向にまわしてエンジン回転を上げます。

4 運　転　操　作　の　し　か　た

★安全な作業を行うために、十分に理解して行ってください。

変速

1. 変速レバー

変速表の適応作業を目安に変速位置を選びます。

速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上り等に弊害が出ます。

変速の要領

1) 変速レバーは、必ずクラッチを切ってから操作します。

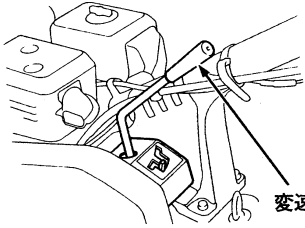
2) 変速レバーが作動しにくい時にはいったん**"中立"**に戻し、クラッチを入れて少し動かし、クラッチを切りもう一度操作します。

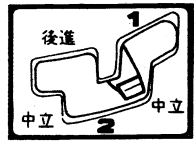
3) 後進の場合、特に足元に十分注意し低速で運転します。(BA,K,KAタイプ)

注意

- **後進するときは、固定レバーを使用しないでください。(BA,K,KAタイプ)**

(BK,K,KAタイプ)

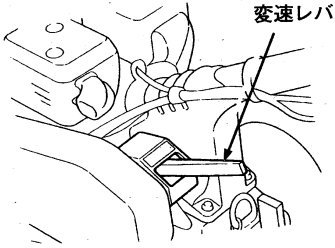


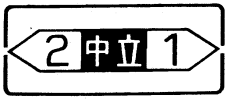


変速表　　エンジン回転3600 rpm時

変速位置	車軸回転数
1	72 rpm
2	103 rpm
後進	33 rpm

(KCタイプ)

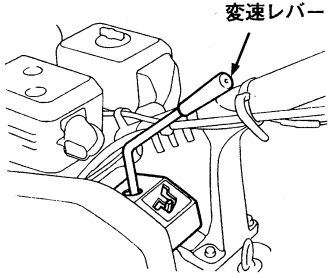


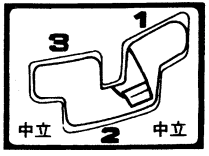


変速表　　エンジン回転3600 rpm時

変速位置	車軸回転数
1	72 rpm
2	103 rpm

(KRタイプ)





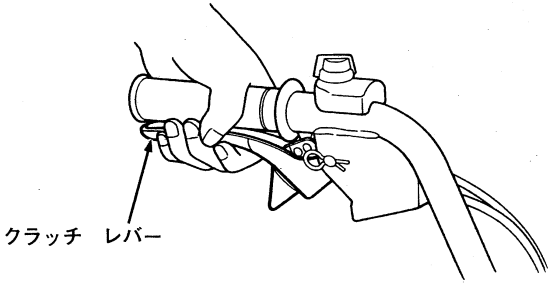
変速表　　エンジン回転3300 rpm時

変速位置	車軸回転数
1	32 rpm
2	58 rpm
3	102 rpm
P.T.O	1,594 rpm

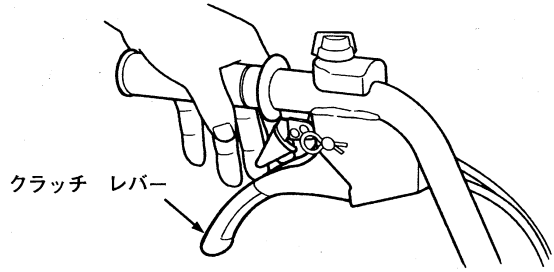
運転

2-1. クラッチ　レバー

クラッチ　レバーを操作することにより、本機の走行及び停止が行えます。
レバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。



レバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。



- クラッチ　レバーの操作は、静か(スムーズ)に行います。
- 急激な操作を行うと本機が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

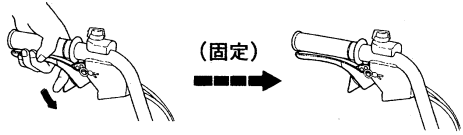
2-2. 固定レバー

固定レバーを操作することにより、クラッチ　レバーは握ったままの状態が保持できます。

固定レバーを使用する場合は十分クラッチ操作に慣れてから、又広い耕地及び身辺に障害物のない場所で使用してください。

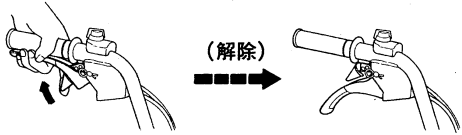
●クラッチ　レバー固定のしかた

クラッチ　レバーを握って固定レバーを人差し指で押すとクラッチ　レバーは固定されます。



●クラッチ　レバー固定解除のしかた

解除するときは、固定レバーを人差し指で手前に引き、クラッチ　レバーを放します。

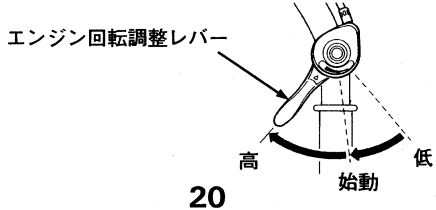


注意

- **固定レバーは狭いハウス内、障害物のある耕地では使用しないでください。**
- **固定レバーを使用し作業を行う時は、状況に応じすぐ解除できる状態を保ってください。**

3. エンジン回転調整レバー

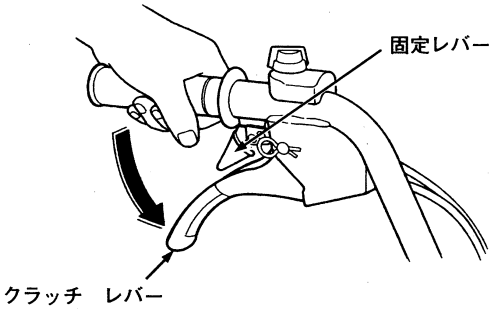
レバーを“高”方向にまわし、エンジン回転を上げます。



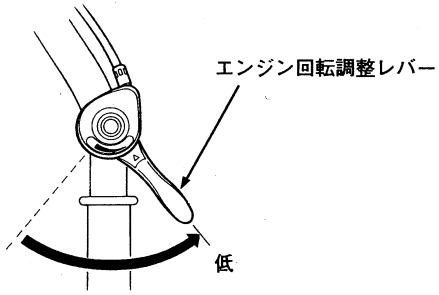
5 エンジンのとめかた

1. クラッチ　レバーを**"切"**にします。

●クラッチ　レバーが固定されている場合は固定レバーを引いてからクラッチレバーをはなして**"切"**にします。

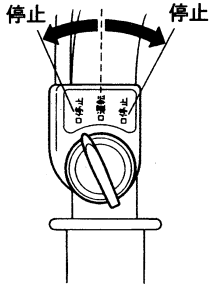


2. エンジン回転調整レバーを**"低"**の位置に戻します。

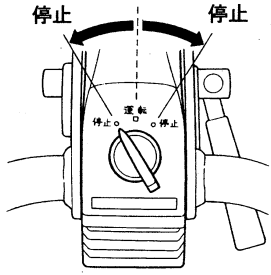


.エンジン　スイッチを**“停止”**にします。

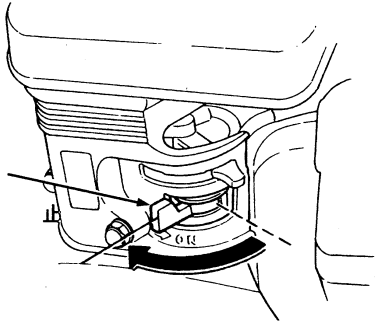
（BAタイプ）



（K,KA,KC,KRタイプ）



∴燃料コック　レバーを**“止”**にします。



6 定期手入れを行いましょう

点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

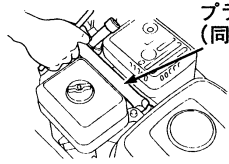
《清掃時期》

100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. プラグ　レンチで点火プラグを取外します。
2. プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

●プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。

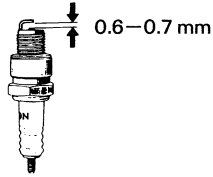


プラグ　レンチ
(同梱工具)

《調　整》

●側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

すき間： 0.6−0.7 mm



《標準プラグ》

BP5ES(NGK)

W16EP-U(ND *)

* NIPPONDENSO CO., LTD.

注意

- **標準以外のプラグを使用しないでください。**
- **エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。**
- **プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。**

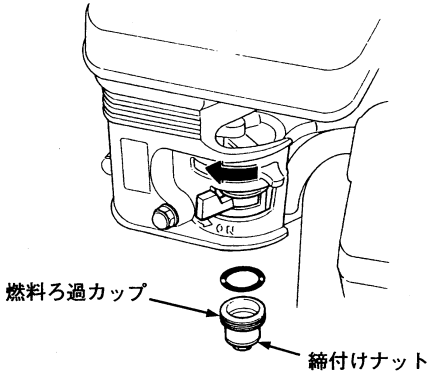
燃料ろ過器の清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

《清掃時期》

100時間運転毎

1. 燃料コック　レバーを**"止"**にします。
2. 燃料ろ過カップを取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗油でよく洗い底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、ガソリン漏れのないよう締付けナットを確実に締付けてください。



注意

- **燃料ろ過カップ清掃中は火気厳禁。**

エンジン回転調整ワイヤの調整

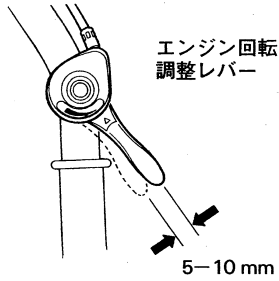
エンジン回転調整ワイヤの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

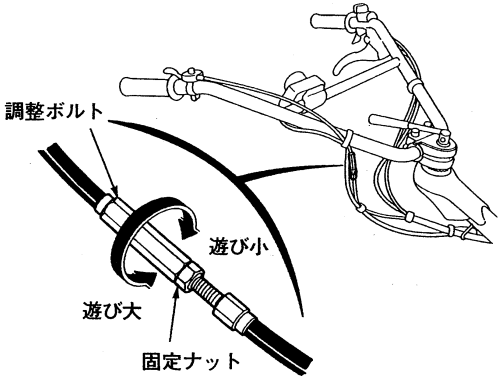
《調整時期》

300時間運転毎または1年1回

《調　整》

1. エンジン回転調整レバーの遊びが、先端で下記寸法になるように調整します。
   5—10 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ボルトをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。





クラッチ　ワイヤの調整

クラッチ　ワイヤの調整が完全でないとベルトがすべります。

《調整時期》

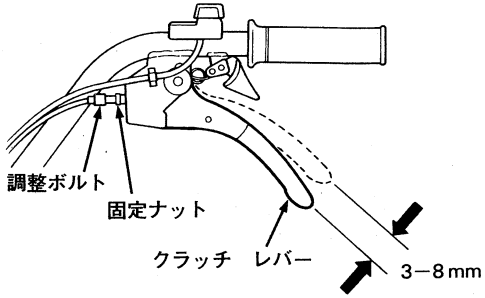
初回：20時間目、以後：100時間運転毎

《調　整》

1. クラッチ　レバーの遊びがレバー先端で下記寸法になるように調整します。

　3—8 mm

　調整は固定ナットをゆるめ、調整ボルトで行います。



2. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

注意

- **クラッチ　ワイヤ調整時には、必ずエンジンを止めてください。突然車軸が回転することがあります。**

駆動ベルトの調整

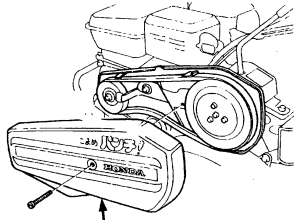
ベルトがすべると動力を損失するばかりでなく、ベルトの傷みがいちじるしく早くなります。

《調整時期》

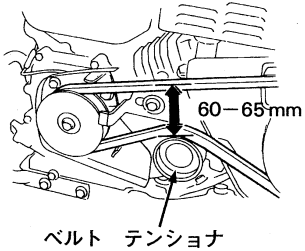
初回：20時間目、以後：100時間運転毎

1. クラッチ　ワイヤを調整します。(P.26)
2. ベルト　カバーを取外します。
3. クラッチ　レバーを握った状態、または固定レバー使用の状態(クラッチが“入”の状態)で、テンショナ部のベルト間隔が下記寸法になるように調整します。

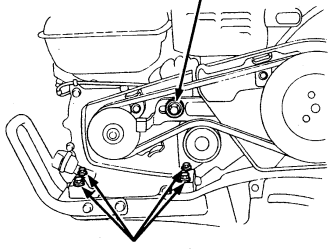
   60—65 mm
4. 調整はエンジン　スティ締付けボルト、エンジン締付けボルトをゆるめ、エンジンを前後に動かして行います。
5. 調整後、ボルトは確実に締付けてください。



ベルト　カバー



ベルト　テンショナ

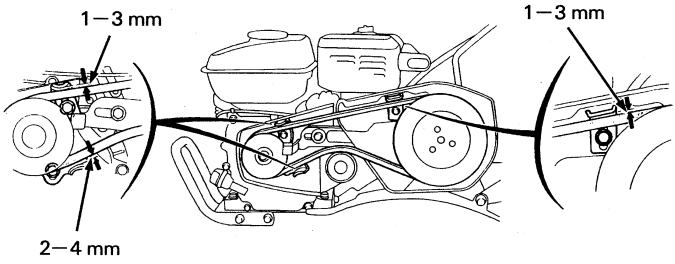


エンジン締付けボルト

注意

- **調整時エンジン側プーリの中心と変速機側プーリの中心を合わせてください。合わせないとベルトが早く傷みます。**
- **調整後、ボルトは確実に締付けてください。ボルトがゆるみエンジンが脱落しておもわぬ事故が発生します。**

6. ベルトとベルト　ストッパのすき間を図のように調整します。



7. 調整はストッパ締付けボルトをゆるめ、ストッパを上下に動かして行います。
8. 調整後、ボルトは確実に締付けてください。
9. ベルト　カバーを取付けます。

注意

- **ベルト　カバーを必ず取付けてください。取付けないで作業すると衣類が巻き込み、思わぬ事故を招くことがあります。**

7 長期間使用しない時の手入れ

★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐ為点火プラグ　キャップをプラグから取外します。

①燃料タンク、気化器内のガソリンを抜きます。

〈抜き方〉

1. 燃料コック　レバー**"出"**にします。
- 気化器(キャブレータ)のドレン　ボルトをゆるめ気化器内及び燃料タンク内のガソリンを抜きます。
- 完全に燃焼が抜けたら燃料コック　レバーを**"止"**にします。

2. エンジン　オイルを交換します。(交換方法は6頁参照)
3. 空気清浄器を清掃します。(清掃方法は7頁参照)
4. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジン　バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)
5. クラッチ　レバーを**"切"**にします。

注意

- **抵抗棒を取外し、ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあるので必ず本機は水平の状態で保管ください。**
- **燃料を抜く時は火気厳禁。**
- **風通しの良い場所で行ってください。**
- **抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。**

8 故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことがティラーを長持ちさせる秘けつです。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

- ガソリンはありますか?
- エンジン　オイルは注入口、口元まであります か?
- 点火プラグから火花が出ますか?

次の点検をする前に、エンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またウエスで完全にふきとってから行ってください。
プラグを取外し、プラグ　キャップに取付けプラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ　キャップ以外には触れないでください。)、エンジン　スイッチを**"運転"**の位置にして、始動グリップを強く引きます。この時プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

注意

- **この点検は風通しのよい場所で行ってください。**

- 始動方法は、取扱説明書通りですか?

クラッチが作動しない時は次の点を確めましょう

- クラッチ　ワイヤの調整方法が取扱説明書通りですか?

少し時間をおいて
もう一度確めましょう

故障の修理
お買いあげ販売店へお申しつけください。

10 主　要　諸　元

名称		F310	
型式		F310	
区分		K	KA
機体寸法	全長	1,320 mm	
	全幅	635 mm	
	全高	970 mm	
	ハンドル幅	600 mm	
全装備重量		46 Kg	36.5 Kg
エンジン	名称	ホンダGX110	
	形式	空冷4サイクル1気筒25° 傾斜ガソリン	
	総排気量	0.107 ℓ	
	出力／回転速度	2.7 ps/3,600 rpm(最大3.5 ps/4,000 rpm)	
	使用燃料	無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量	1.4 ℓ	
	エンジン オイル容量	0.6 ℓ	
	点火方式	トランジスタ マグネト点火	
	始動方式	リコイル、スタータ	
クラッチ方式		ベルト テンション	
変速段数	前進	2段	
	後進	1段	
安全鑑定適合番号		802011	

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります、ご了承下さい。

名称		F310		
型式		F310	F310P	F310
区分		KC	KR	BA
機体寸法	全長	1,320 mm		
	全幅	635 mm		
	全高	970 mm	970 mm	1,000 mm
	ハンドル幅	600 mm		
全装備重量		45 Kg	38 Kg *	38 Kg
エンジン	名称	ホンダ GX110		
	形式	空冷4サイクル1気筒25° 傾斜ガソリン		
	総排気量	0.107 ℓ		
	定格出力／回転速度 (ps/rpm)	2.7/3,600 (最大3.5/4,000)	2.5/3,300 (最大3.5/4,000)	2.7/3,600 (最大3.5/4,000)
	使用燃料	無鉛ガソリン		
	燃料タンク容量	1.4 ℓ		
	エンジン オイル容量	0.6 ℓ		
	点火方式	トランジスタ マグネト点火		
	始動方式	リコイル スタータ		
クラッチ方式		ベルト テンション		
変速段数	前進	2段	3段	2段
	後進	———	———	1段
安全鑑定適合番号		802011	902001	802011

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります、ご了承下さい。

*：ロータリなし、ドラックバー付の全装備重量です。